

【今週の注目疾患】

【後天性免疫不全症候群】

2017年第38週に県内医療機関から2例の後天性免疫不全症候群の届出があった。後天性免疫不全症候群は、感染症法において5類全数把握疾患に分類され、千葉県では2017年第38週までに、38例の届出を認めている。内訳はHIV感染者が28例、AIDS患者が10例であり、診断時に既にAIDS発症のある、いわゆる“いきなりAIDS”といわれる症例の割合は26%であった。2006年4月から2017年第38週までに千葉県内医療機関から届出られた後天性免疫不全症候群は合計643例（HIV感染者386例、AIDS患者257例）あり、届出数の年次推移はほぼ横ばいである。届出に占めるAIDS患者数の割合も2006年から2015年まで横ばい傾向が続いていたが、2017年は2006年以降初めて30%を下回っている（図1）。外国籍の症例は73例あった。2006年以降、届出例の年齢分布や男女比は年次によって若干異なるものの、年齢分布や男女比が一定の傾向に変化しているといったことは認められていない。HIV感染者の年齢分布は20代をピークとし、AIDS患者は30～40代にピークを示す（図2）。年齢中央値は、HIV感染者が34歳（範囲19-75）、AIDS患者は43歳（範囲18-91）であった。性別ではHIV感染者は男性340例、女性46例で男性の割合が88%であり、AIDS患者は男性223例、女性34例で男性の割合が87%であった。推定感染原因・感染経路（重複あり）について、HIV感染者は同性間性的接触による感染が53%、異性間性的接触による感染が34%であり、その年次推移は図3のとおりである。HIV感染の早期発見のため、県では、保健所において無料・匿名・予約制でHIV検査を実施しており、11月26日（日）には市川健康福祉センターにおいて予約不要の休日街頭HIV検査を実施する。今後も感染していることを自覚できていない方にも検査を受けていただくよう検査機会の提供を継続する。

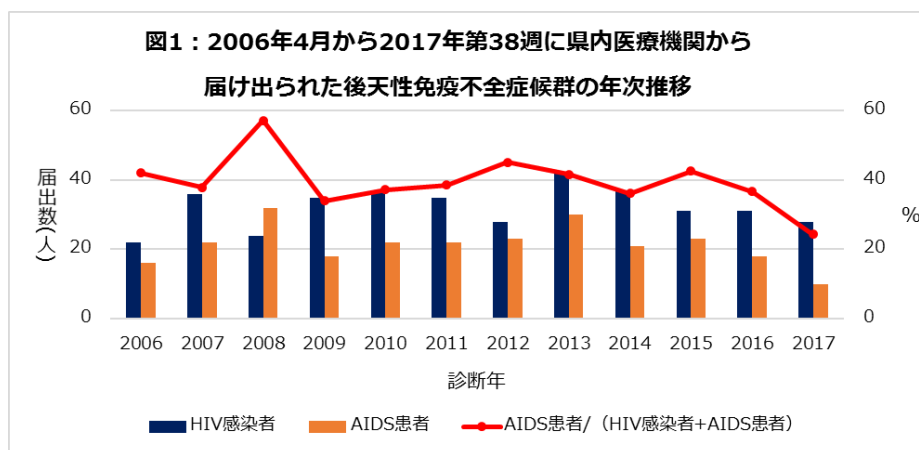


図2：2006年4月から2017年第38週に県内医療機関から届け出られた後天性免疫不全症候群の年齢分布

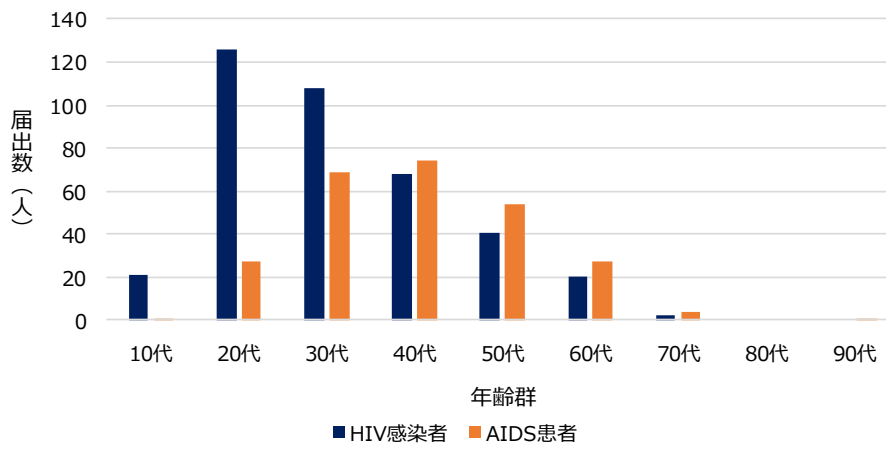


図3：2006年4月から2017年第38週に県内医療機関から届け出られた後天性免疫不全症候群の推定感染原因・経路における同性間・異性間性的接触の割合の年次推移

